

ボランティアさん募集中!

何かボランティアをしてみたい人、人の役に立つことができなかなとお考えの方、あなたの力を必要としている人が待っています!

♥精神保健ボランティア♥



連絡先

・徳島保健所 精神保健係

(「ハート・とくしま」事務局)

徳島市新蔵町3丁目80

TEL 088-652-5156

・精神障害者小規模作業所「あわっこ」

徳島市寺島本町東1丁目30

TEL 088-623-4556

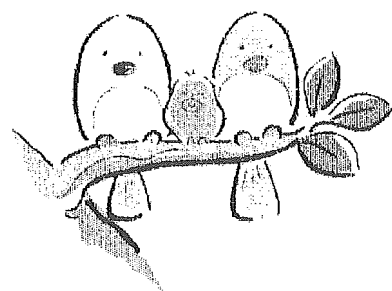
(木・日曜日はお休み)

賛助会員とは

- ・ 賛助会員とは、「ハート・とくしま」の活動を理解し、主に経済面でご協力してくださる方です。

年会費は、1口1,000円です。

- ・ 入会は単年度とし、年度末に次年度の継続の意志をお聞きします。
- ・ 年度末に活動内容を報告します。
- ・ 総会等の会合に出席する必要はありません。



4. メンバー研修 交流 リクレーション

4・10	俳句講座 (13名)
4・24	〃 (15名)
4・28	木曜会 (12名)
5・14	俳句講座 (22名)
5・24	徳島県精神福祉センター発表 磯谷さん (1名)
5・28	俳句講座 (17名)
6・11	〃 (15名)
6・12	お誕生会 (23名)
6・25	俳句講座
6・26	合同レクレーションパーベキュー大会藍住町福祉センター (8名)
7・9	俳句講座 (12名)
7・23	〃 (17名)
8・20	〃 (11名)
8・28	ぶどう狩り (21名)
9・10	俳句講座 (15名)
9・17	〃 (14名)
10・8	〃 (13名)
10・13	合唱練習 (23名)
10・16	〃 (23名)
10・18	心のリフレッシュ講演会 (8名)
11・12	精神保健講演会 (14名)
11・18	木曜会 ユニバーサルスタジオの旅 (23名)
11・20	俳句講座 (15名) 内町文化展 (1名)
11・21	内町文化展 (22名)
11・22	合唱練習 (15名)
11・26	〃 (23名)
12・3	〃 (21名)
12・16	ポインセチアまつり前日納入 (2名)
12・22	お誕生会 (19名)
H17年	
1・14	俳句講座 (15名)
1・28	〃 (17名)
2・4	〃 (20名)
2・21	〃 (18名)
2・28	当事者学習会 (病気とのつきあい方) (14名)
3・11	俳句講座 (15名)
3・19	お誕生会 (28名)
3・25	俳句講座 (15名)

10・24	人権フェスティバル（加茂名南小学校 17名）
10・25	フオロアアップ講座
10・25	ハートとくしま定例会
10・26	障害者福祉展説明会
11・6	企画会
11・10	フオロアアップ講座
12・6	目で見る精神保健展反省会
12・7	企画会
12・8	県ホームページ作成打ち合わせ 来所
12・16	ポインセチアフェスティバル展示物搬入
12・17	〃 文化の森
12・18	〃 劇場出場（23名）
12・19	〃 展示物搬出
12・19	ハートとくしま定例会
12・24	徳島県社会福祉協議会 伊原さんほ他
12・25	大掃除 午後2時より
12・27	冬休み ～
H17年	
1・8	作業開始
1・11	精神保健ボランティア協議会
2・3	徳島県精神保健福祉協会「現代とうつ」講演
2・3	今後の「あわっこ」について考える会 保健所
2・3	ケース検討会
2・5	徳島中央ロータリークラブ美馬準一さん商品納入打ち合わせ
2・5	吉備国際大学岡本幸子さん実習の打ち合
2・8	徳島市社会福祉協議会第10回精神福祉ボランティア講座（25名）
2・8	徳島中央ロータリークラブI・M実行委員会納入 大塚ベガホール商品納入 330箱
2・9	代休（3日中央病院全員出店のため）
2・15	徳島市社会福祉協議会ボランティア講座で発表 家族会・・・磯谷祝子 池田美千代 当事者・・・池田武史 豊田直人 午後全員会に参加 森 茂喜 体験入所
2・23	職業リハビリテーション推進フォーラム

あわっこ作業所活動報告 H・16年度

1. 研修・会合・来所・行事

月 日	行 事
4・2	企画会
4・6	ハートとくしま連絡協議会
4・7	あわっこ作業所会計監査
4・19	ハートとくしま総会
4・24	家族会（10名）
4・27	アマノ株式会社斉藤さん来所
5・1	企画会
5・7	ナイスリフォーム出店打ち合わせ
5・8	徳島県障害者連絡協議会（県総合福祉センター）
5・13	シーガル病院の斉藤理事長訪問 中井係長ほか（4名）
6・7	企画会
6・9	あわっこ作業所第1回運営委員会（10名）
6・18	ケース検討会（豊田） 保健所
6・19	徳島県障害者地域共同作業所連絡協議会
6・25	精神障害者社会復帰支援関係者研修会
7・3	企画会
7・6	徳島県家族会総会
7・17	家族会
7・26	ハートとくしま定例会
7・29	うみがめ作業所臨地研修（21名）
8・7	企画会
8・23	ハートとくしま定例会
8・31	目で見ると精神保健展打ち合わせ会議
9・3	企画会
9・11	地域共同作業所「虹」見学
9・25	徳島県老人をかかえる家族会
10・2	家族会
10・2	企画会
10・7	市役所と文理大の出店打ち合わせ会
10・8	市役所売店打ち合わせ会
10・13	岡田キャンピン株式会社スーパーバイザー打ち合わせ
10・23	あわっこ作業所7周年記念感謝祭（32名）および家族会

【上板町における精神保健福祉活動の経過】

	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
	地域保健推進特別事業 (保健所主催)		上板町主催						
精神保健福祉連絡協議会	年1回	年2回	年2回	年2回	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
実務者レベル検討会	8回	6回	8回	5回	5回	3回	4回	5回	4回
ソーシャルクラブ	月1回	月1回	月2回	月2回	月2回	月2回	月2回	月2回	月2回
精神保健福祉講演会	年1回	年1回	年1回	年1回	年3回	年3回	年2回	2回	1回
精神保健公開講座	7回1クール	6回1クール	6回1クール	4回1クール	4回1クール	4回1クール	4回1クール	4回1クール	4回1クール
精神保健ボランティア講座 家族教室			OB対象1回 2回	1回	2回	家族会結成され そちらの活動に		ねんりんびっく 開催のため中止	
アトリエいちょう			週1回 (9月より開始)	週1回	週1回	週1回	週1回	週1回	週1回
家族会					12月家族会発足 定例会1回	総会 例会3回	総会 例会2回	総会 例会5回	総会 例会4回
メンタルヘルスボランティア「たんぽぽ」				6月結成 活動開始					
精神障害者ホームヘルプサービス				2名	2名	3名	2名	1名	2名
	「花作り」 当業者や家族、ボランティア等が協力して一つのことに取り組む活動								

第8号

発行日
平成17年1月15日

ハートだより

精神保健ボランティア「ハート・とくしま」

事務局(徳島保健所内)
〒770-0855 徳島市新蔵町3丁目80
TEL(088)652-5156 FAX(088)652-9334

「ハート・とくしま」は精神障害者の方の社会復帰をお手伝いしているボランティア団体です。
精神障害者小規模作業所「あわっこ」は「ハート・とくしま」が運営する通所型の作業所です。

1年をふり返って

「ハート・とくしま」会長 岸 マサコ

悲喜こもごもの感動を残して2004年が終わり、新しい年の始まりです。おめでとうございます。アテネ五輪やパラリンピックのメダルラッシュ、イチロー選手の262本安打に歓喜した夏、度重なる台風の来襲と新潟中越地震の恐怖の秋、地震の後遺症は今も続いています。

その中で「ハート・とくしま2004」の総括をしてみます。総会は11名の新会員を迎えてのスタートです。大和証券福祉財団からいただいたミシンを活用しての活動は順調でヒット商品の帽子や袋物を製作し、参加者の輪も広がりました。

恒例の健康福祉祭りでは売り上げを伸ばし、10月には「あわっこ」作業所の7周年記念感謝祭も行い、地域の人達と交流、続いて賛助会員の募集も決まり、少しずつ賛同者を得ています。

新年度は、三位一体改革の地方への波及がどうなるか不透明ですが、福祉に関する予算は減らされることはないとの報道に一安心です。「ハート・とくしま」として何ができるか、皆さまのアイデアを待っています。



「あわっこ」作業所7周年を迎えて

「あわっこ」作業所 指導員 大西 順子

今年「あわっこ」作業所7周年記念感謝祭を寺島公園と作業所で開催することができました。これも保健所の先生方、精神保健センターの先生方のご指導、ご支援のおかげだと深く感謝しております。また、徳島診療所の先生と看護師さんが日々見守ってくださるので私達は安心して通所することができます。有難うございます。

「あわっこ」は作業の他に俳句、小物作り、合唱などの各講座を学習しています。その発表の場の一つに5年前から内町地域文化展に参加しています。この文化展が地域との交流の場となって「あわっこ」への関心と理解を深めるよい機会となっていると思います。

今年度、スタッフとメンバーさんが商品の訪問販売に行ったのがきっかけで、週2~3日、訪問販売に出向いています。今ではそれぞれ得意先ができています。メンバーさんが外に向かって一歩踏み出せた「勇気と努力」に心打たれ感動しました。「また来てね」と喜ばれるお菓子を心をこめてみんなで作っていきます。これからもよろしく願いいたします。「感謝！」



息の長いご活躍を・・・

徳島保健所 新崎 由紀子

明けましておめでとうございます。「ハート・とくしま」の皆様には、希望に満ちた新年をお迎えることとお慶び申し上げます。

昨年は「あわっこ」作業所開所7周年を迎えられ、その記念感謝祭が盛大に催されました。年月を経るごとに、作業所がメンバーさんの社会復帰への大きな力になっていると共に、地域でも親しまれ、普及啓発にもつながっていることを力強く感じています。その背景には「ハート・とくしま」の皆様の温かい心とお力添えがあることをますます実感しています。

16年度の精神保健ボランティア・フォローアップ講座にお招きした四国学院大学の西谷清美先生(社会福祉学部)から、精神保健ボランティアは「自己覚知」が大事だと教えていただきました。自分の「くせ」に気づき、自分をきちんと見すえること。その基礎がまず必要であると。また、人と人との出会いは素晴らしいことですが、反面怖いことでもあります。相手の人生に関わるのですから、私たちの発した何気ないひとことがその人を変えてしまうかもしれません。よい意味でも悪い意味でも。さりげなく、けれど自分をきちんと見すえた上でボランティア活動を行うことは、あたりまえのようでいて、実はかなり難しいことなのかもしれません。それをしなやかにこなしていらっしゃるボランティアさんたち、ときには肩の力を抜きながら、息の長いご活躍をされることを今後も期待しています。



ボランティア一年生・・・

「あわっこ」作業所

補助指導員 久保 福子

60歳の誕生日を目前に思いもよらぬ脳動脈瘤との出会い、なぜ? どうして? 思い迷う時間もなく入院、手術、退院と振り返ればわずかヶ月の間に人生最大の病気体験をした。静養期間を経てさてこれからの人生をどう生きよう、40年近く我が天職と信じ毎日を過ごした職場に戻るか、これを契機に新しく何かに取り組むか、思い悩んだあげく退職、今までできなかったいろんなカルチャーに挑戦。

そんなとき呉羽さんより「あわっこ」の事務に欠員があると声がかかり今までの経験を生かせるならとすぐにOKの返事、4月より週2日の出勤。さて今までボランティアの言葉は理解しているつもりでもいざ何をどうしてよいか手探りのなか、メンバーさん、指導員、他のボランティアの方々の手助けをい

ただき何とか慣れてきた。慣れるに従いメンバーさんの豊かな個性、人間性等知るにつけ、障害を持つ人達について無知だったことを恥じる思いです。

それぞれに思いやり、真面目、根気、等々私達の忘れかけている原点を見るにつけ私の方がいろいろ教えられている思いです。

これからもいろんな行事に参加しながら、メンバーさん達と共に仲良く、楽しく「あわっこ」で・

指導員の皆様、「ハート・とくしま」の皆様今後ともご指導よろしくおねがいします。



「あわっこ」作業所で



「あわっこ」7周年記念感謝祭について

豊田 直人

まず一言、この言葉から始めさせて下さい。「ありがとう。やっぱりチームワークだね」あっそうそうこの言葉を忘れては「笑顔」。

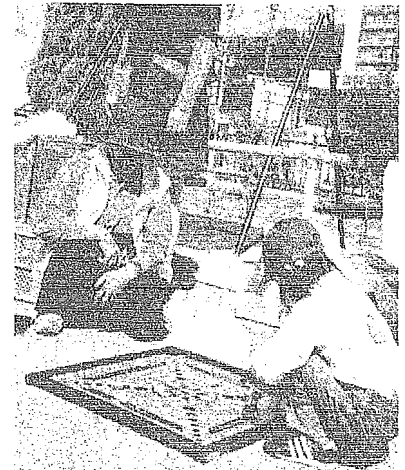
「あわっこ」7周年記念感謝祭について、おめでとうだけでは片づけられない、そう気付きました。この7年間、どうして続いてこられたんだろう？それは、みんなの努力、そして協力があったからこそ出来た訳で、メンバーの前向きな姿勢、それと何よりも大事なものは、ボランティアさん、指導員さん、そして病院の先生、看護師さん達、何よりもお客さん達。こういう支えが一つになっているからこそ7年も「あわっこ」が続いている。そう思いました。

訪問販売、配達、出店などで出会った人達。そういう人達も、たくさん来てくれました。そこでの会話、昔なら話しかけていただいても、返事が出来ない時などありました。それが今ではこちらから声をかけさせてもらって、笑いながらも、商品の説明をしたり、ゲームを楽しんだり出来ました。自分では夢の中での事みたいでした。でも現実なんだな、そう気付きました。

これからも10年、20年と毎回明るい記念感謝祭になるように努力して前向きにしていきたいと思います。



記念感謝祭の開会式



こま廻しゲームに興じる子供

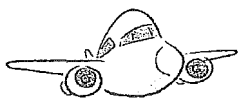
USJバス旅行感想文

田中 淳一

はっきり言って私は、今回の旅行をどちらかと言えば行きたくありませんでした。

しかし、誰に聞いても一度は体験した方が良いのではないかとわれ、行くことになりました。雨の中をUSJに行ってびっくりしたことは、平日にもかかわらず人出の多いことでした。私達は最初からみんなにはぐれました。しかし、福山さん達のグループを見つけてスパイダーマンの館に入りました。立体メガネをかけて車に乗り、びっくり、はらはら、どきどきの連続でした。それから12時近くになったので、昼食をとり中華料理コースの店へ行きました。私は本格的な中華料理を期待していたのですが、簡単な料理でした。それからET館へ行きました。それは不思議の国の世界を観るようで、とても気持ちが落ち着きました。

福山さんが案内してくれたもう一つのパビリオンへ行く時間がなかったので、喫茶店で、コーヒーを飲みました。そうこうしているうちに、みんなが集まって、和気あいあいと感想を述べていました。雨が降るにもかかわらず、殆どがパビリオンの中などで苦になりませんでした。面白く、とても楽しい一日でした。



和気あいあいと作品作り

浅野 民子

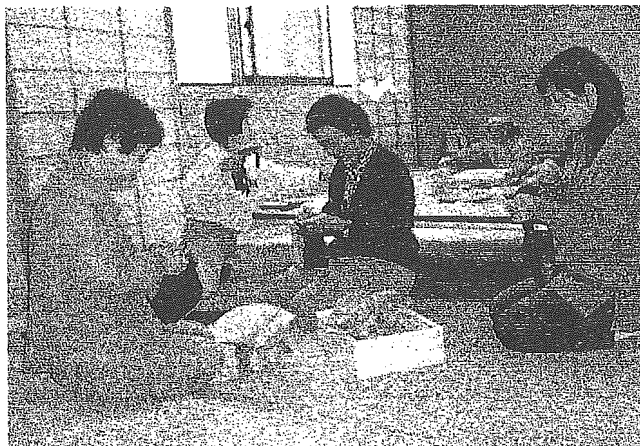
私たちは「ハート・とくしま」の会員です。平成8年に発足しましたから、もう8年が過ぎました。活動の一環として先日も「第10回徳島県健康福祉祭り」に参加しました。藍場浜公園で、肉まん、あんまんの販売、手作り製品の販売、バザー品の販売などをしました。その手作り製品で販売した帽子は、私たちが作りました。大和証券から助成金として頂いたお金で電子ミシンを購入しました。刺繍もできる素晴らしいミシンです。最初は使い方も充分解らずちょっと苦労しましたが、周1回、徳島保健所のボランティアルームで、7～8人が和気あいあいと作品作りに励みました。仲間の方が、帽子の型紙を持ってきたので、それを洋裁の得意な人が、布を裁断して作り上げました。

ボランティアをしていると、皆さん何か得意とするものを持っているので、その技術を教えてもらえて、うまく出来たときは、嬉しいものです。

これからも、色々な作品作りに挑戦していきたいと思っています。



ホッカホカ肉まんの販売



協力して楽しく帽子作り

賛助会員を募集しています

★賛助会員とは・・・

- ・「ハート・とくしま」の活動を理解し、主に経済面でご協力して下さる方です。
- ・年会費は、1口1,000円です。
- ・入会は単年度とし、年度末に次年度の継続の意志をお聞きします。
- ・年度末に活動内容を報告します。
- ・総会等の会合に出席する必要はありません。



三角公園との出会い

田福 理子

精神保健ボランティアに参加するようになったのは、民生委員として上司の推めからだった。私自身は表面的には、特に差別意識は持っていないつもりだったが、心の底には当たらずさわらず付き合おうとの偏見があった事は確かだ。

「ハート・とくしま」に入会后間もなく、三角公園で開かれた「あわっこ」作業所の7周年記念感謝祭に参加した。メンバーさん達の楽しそうな様子と馴れない私は少々ぎこち無さを感じながら充たされた一日だった。

そして、11月の健康福祉祭りでは、メンバーさん達の生き生きとした動作を見て驚いた。7周年記念感謝祭の時は、会場が作業所近くだったせいか内輪の催しの感じがした。しかし、藍場浜会場では、一般の中に居るという開放感、一体感からだろうか、実に伸び伸びしていたように思った。

彼等らが一段と身近な存在になった今、彼等のよき友人となれるよう、ボランティア活動を続けて行き度いと心を新たにしているところである。

★★ 編集後記 ★★

2004年は、多くの災害に見舞われた年でした。雪景色で始まった2005年。今年は、大きな幸せに包まれる年でありますように・・・

今年もよろしくお祈りします。(広報)

事業の概要	16年度事業計画
(3)断酒会	(1)断酒会への参加及び育成 (2)関係機関・各地域断酒会団体との連携
(4)ケース会議	(1)真珠園療養所・三和中央病院との地域カンファレンスの実施 (2)事例検討会及び処遇検討会の実施 (所内・所外)
<p>4. 障害者社会参加総合促進事業</p> <p>1)スポーツレクレーション教室開催事業 各種のレクレーション教室等を通し、地域住民等とふれあう機会をもつことにより、精神障害者の社会復帰及び自立と参加の促進を図る。</p> <p>2)市町村障害者支援事業</p> <p>(1)精神保健福祉ボランティア養成基礎講座 精神障害者が地域で安心して生活していくための理解者、支援者を育成し、精神障害者の社会復帰や自立、社会参加の促進を図る。</p> <p>(2)精神障害者家族教室事業 精神障害者家族に対して、病気に対する正しい知識、情報を提供することで、家族の治療的役割の強化を図るとともに、家族の負担の軽減も図る。</p> <p>5. 社会復帰対策</p> <p>1) 社会適応訓練事業 回復途上の精神障害者が、協力事業所において仕事を通じて社会適応訓練を行い、再発予防と社会的自立を目指す。</p>	<p>(1)地域イベント（健康祭り・産業祭り等）への参加 (2)老人クラブ、婦人会、中学生、高校生、精神保健福祉ボランティア団体等との交流</p> <p>(1)精神保健福祉ボランティア基礎講座の開催 開催町：三和町 (2)精神保健福祉ボランティア実践講座の開催 開催町：時津町 (3)精神保健福祉ボランティアグループの育成支援 (4)精神障害者当事者や家族会と精神保健福祉ボランティアグループとの交流会</p> <p>(1)精神障害者家族教室の開催 開催町：長与町 (2)医療機関への広報（チラシ作成）及び協力依頼</p> <p>(1)社会適応訓練事業運営協議会の開催 （奇数月第1金曜日開催） (2)協力事業所の開拓 (3)訓練通所生及び協力事業所への訪問支援 (4)管内協力事業所連絡協議会の開催 (5)雇用就労に向けた関係機関との連携</p>

事業の概要	16年度事業計画
<p>2) 社会資源の整備促進・運営支援 地域の社会復帰関連施設の整備に向けた関係機関との連携</p> <p>6. 精神保健福祉の普及・啓発事業 精神障害に対する正しい知識の普及啓発により、地域住民の偏見や、誤解を取り除くと共に、精神的健康の保持増進を図る。</p> <p>6. 市町村支援 市町村に対して、技術的・専門的な協力支援及び市町村相互間の連絡調整等を行う。</p>	<p>(1) 地域活動所運営に関する支援 (2) 社会復帰施設の利用促進及び調整 (3) 管内地域活動所指導員等研修会の開催 (4) 精神障害者居宅生活支援事業に関する町への支援 ・精神障害者地域生活援助事業（精神障害者グループホーム）の設置促進について、関係機関への働きかけ。 ・設置に向けての地域住民に対する理解の推進を図る。</p> <p>(1) 管内町、関係機関、関係団体が行う地方講演会への支援 (2) 精神保健福祉大会等、精神保健関連研修会の広報PR (3) 職域における啓発事業等を通じ、うつ病対策及びこころの健康問題、精神疾患及び精神障害者に対する正しい理解の推進を図る。</p> <p>(1) 町職員精神保健福祉担当者研修会の開催 (2) 精神障害者ホームヘルパー特別研修会及びフォロー研修会の開催 (3) 市町村職員関係者を含めた定期及び随時のケース検討会の開催 (4) 町で行われる業務検討会等への参加</p>

(創設の時期、活動の頻度、対象者数など数値を用いて具体的に)

【 事業の概要 】

「デイケア」は保健所内と支所の2カ所で実施。管内の病院デイケア及び市町村デイケアも充実してきており、3年前より保健所実施は縮小の方向で考えてきた。

所内はS62年創設、

現在は月2回(第2、第4火曜日・・9時30分～15時)

支所はS60年発足、

現在は月1回(第4木曜日 9時30分～15時)

調理実習、運動、音楽、手芸、施設見学、茶道、華道、研修会・・など多種のメニューを取り入れている。

「家庭訪問」は保健所単独訪問が主であるが、ケースによっては市町村との連携による同行訪問もを実施。571件(H15年度)

「地域社会一般への啓発」については講演会、出前講座、情報誌発行により正しい知識を得るとともに精神障害者の基盤整備を図る。

「研修」は対象別に実施。

当事者・・・昨年度の要望により就労をテーマとした(1クール2回)

家族・・・「うつ病教室」「統合失調症教室」「社会的引きこもり教室」

ボランティア・・ボランティア講座修了者に対してフォローアップ教室

また職域との連携という面で「職場におけるメンタルヘルス」研修会を実施(1クール 2回)

「市町村活動への支援」2市8町村を管轄。

担当市町村における訪問、各事業の企画・支援・評価をトータルに実施。

市町村の状況により支援頻度等を決定。

「地域内関係組織の連携」

事例によりタイムリーに関係者間で検討会を実施。共通認識、役割認識を図っている。 23回(H15年度)

平成3年より障害者地域関係者会議(実務者レベル)を実施。年1回

資料5 (11) 例11：地域精神保健推進事業の取り組み(大分県三重保健所)

－精神障害者が安心して暮らせる地域づくり－

地域精神保健推進事業の概況

(1) 取組みの背景

- ①管内に精神科専門病院がないため、患者は治療継続への負担が大きく、危機介入を要する処遇困難事例が多かった。
- ②地域保健法・精神保健福祉法の制定で精神保健活動における市町村の役割が明確になり、精神障害者対策も、保健・医療に加え福祉施策を積極的に推進することが求められてきた。

(2) 事業目的

- ①精神障害者および家族の自立と生活能力の拡大
- ②地域生活支援のための保健・医療・福祉の連携
- ③関係者の資質向上及び、精神保健活動への取組みの気運の高揚

(3) 事業内容

- ①管内の精神保健実態分析
- ②関係者の学習会（グループ討議）
- ③精神科医師による訪問指導（保健所保健婦・町保健婦同伴）及び事例検討会
*助言者：精神保健福祉センター所長

(4) 事業経過

町村主管課長及び担当者の参加出来るよう各町村での開催(表1)と保健所での開催(表2)の二本立てとした。

表1 町村での推進会議

月日	会場	内 容
H7.4.11	野津町	①医師同伴訪問
6.13	三重町	②事例検討
9.5	緒方町	③〇〇町の精神障害者及び
11.7	朝地町	精神保健の実態について
H8.1.9	大野町	④〇〇町における今後の精
2.6	犬飼町	神保健について
7.9	千歳村	⑤意見交換
11.12	清川村	

表2 保健所での全体推進会議

月日	内 容
H7.5.16	事例検討、管内の精神保健の実態分析
7.4	事例検討、講話「精神保健法改正と今後の地域精神保健のあり方」 グループ討議「保健と福祉の連携について」
12.12	事例検討、グループ討議「精神障害者が安心して暮らせる条件」
H8.3.6	事例検討、講話「事例提示の仕方の検討」 グループ討議「安心して暮らせる地域づくり・大野郡基本構想図」
5.28	講話、グループ討議「これからの精神保健福祉対策と今後のすすめ方」 先進地視察研修報告
6.18	事例検討、地域精神保健福祉対策－現状分析と今後の取組み発表
9.4	「働く場の確保について」講話・各立場からの意見交換
12.10	事例検討、地域精神保健福祉対策－実践報告

大野郡における精神保健活動

はじめに

平成7年7月に『精神保健及び精神障害者福祉に関する法律』が成立し、精神障害者に対する福祉の概念も広がってきた。また、市町村の役割も明記され、生活者の視点に立った地域精神保健活動が求められている。

そこで、本研究の目的を管内の精神保健に携わる保健・医療・福祉のメンバーが問題意識を共有するために、精神障害者の実態と、地域性をふまえた生活支援のあり方を明らかにすることとした。

1. 方法

- (1) 実態把握 ①資料分析 ②家族構成調査 ③アンケート調査
- (2) 今後のあり方について検討

表1 精神科在院・通院患者数 (H7.6.30現在)

	入院			通院	
	措置入院	医療保護	任意入院	公費通院	その他
人数	13	95	137	208	513
小計	245 (25.4%)			721 (74.6%)	
合計	966				

2. 結果及び考察

(1) 精神障害者の実態

①精神科在院・通院患者数(H7.6.30現在「H7年度保健行政概要」)

大野郡の患者数は 966名で、人口千対17.5で県の16.9をやや上回っている。(表1)

②保健所で把握した患者の状況(H7.3.31現在 入院患者定期病状報告書・通院医療費公費負担申請書)

病類別分類をみると、総患者の64%(358名中231名)が精神分裂病である。

③精神分裂病患者(231名)の状況

医療状況	公費通院54.5%(126名) 医療保護入院36.8%(85名) 措置入院8.7%(20名)
年齢	40代の患者が圧倒的に多く、次いで50代・60代となっている。保護者も高齢化している。
入院年数	医療保護入院で10～15年が最も多く平均11.4年となっており、措置入院では20～25年にピークで、入院年数が長い。入院期間の長期化の一要因として受け皿の不備が考えられる。
医療機関	大野郡には精神科の病院がないため、隣接の竹田市K病院・大分市E病院を約半数の患者が利用している。
家族状況	単身者が18.2%(42名)・親のみ25.9%(60名) 親のみと生活している者は、親の高齢化に伴い将来的には単身者となる可能性が高い。今後単身の精神障害者への支援体制が必要である。

④被生活保護者に占める精神障害者の割合(H7.2現在 生活保護状況)

管内生活保護受給者498名中、精神科受診者は77名(15.5%)である。そのうち47名(約6割)は、単身者である。

⑤通院方法と費用(デイケア・家族会・訪問等でのききとり調査30名)

- ・利用する交通機関は、列車(32.7%)・自家用車(28.6%)・バス(20.4%)・タクシー(14.3%)の順で、1回の通院に要する交通費は、最低480円～最高4600円 平均1632円であった。
- ・約半数の者が通院時同伴者がおり、その費用負担も大きい。
- ・通院頻度は、ほとんどが医師の指示どおりであるが、約13%の者は、指示どおりに受診できていない。
- ・公共の交通機関を利用する者が多いため、公共交通機関の割引制度が広く適用されることが望ましい。
- ・交通の便・所要時間等を考えると身近な所に精神科の病院があることが切望される。

⑥緊急対応事例(H5.4.1～H7.9.30に緊急対応した延30事例)(別途発表参照)

対応件数は平成5年度14件、平成6年度12件、平成7年9月末現在4件である。対応事例の7割が精神分裂病であり、危機の原因としては治療中断が多く7割を占める。治療継続へのかかわりが重要である。

⑦国民健康保険状況(H6.5 目で見る国保の疾病分類)

国保被保険者の疾病分類別受診状況をみると、入院件数は、循環器系に次いで精神障害が第2位である町村が多く、その費用額も高い。また、一件当たりの費用額も高い。町単位の保健問題として無視できない。

(2) 精神保健対策の実態

- ①社会資源 精神病院なし・職親1カ所・作業所1カ所
- ②サービス 国保加入者には、32条自己負担分の補助制度がある。3町村精神保健小委員会の設置 1町地域精神保健推進事業(専門医をまじえた町村現場での取組み)(別途発表参照)

(3) 今後のあり方についての検討

以上の結果から、精神障害者が安心して地域で暮らせる条件について、関係機関のメンバーが各々の立場から意見を出し合いまとめた。

その条件整備のための視点として、5つの柱をたて、大野郡地域精神保健基本構想図を作成した。(図1)

今後は、各機関がそれぞれの立場で推進するとともに、お互いの連携を強めていくことが必要であることを確認しあった。

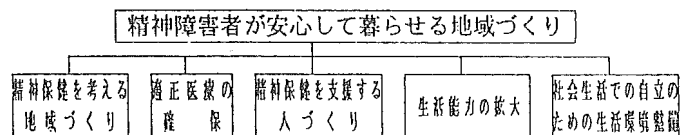


図1 大野郡地域精神保健基本構想図

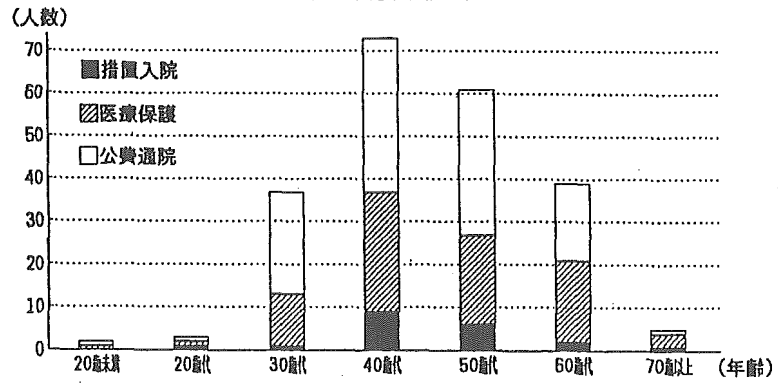
3 まとめ

大野郡の精神保健の実態を明らかにし、資料化することによって関係スタッフ間で活動上の課題を共通認識することができた。また、町村の精神保健行政のあり方にも大きな刺激となった。

今後は「精神障害者が安心して暮らせる地域づくり」に向けての取組みを具体化するとともに、町村レベルの精神障害者ケアプラン作成・サービス提供能力の向上のため、さらに関係者間で検討を重ねたい。

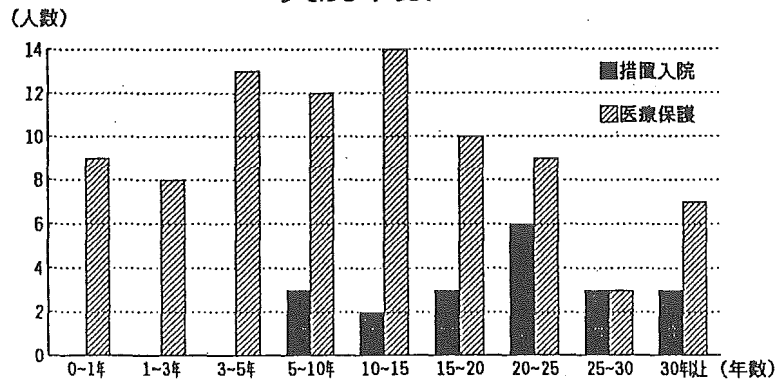
1

年齢別分布



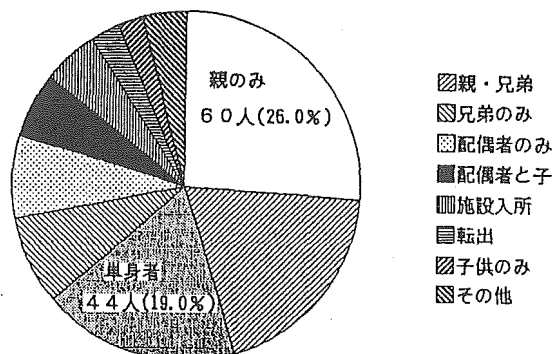
2

入院年数



3

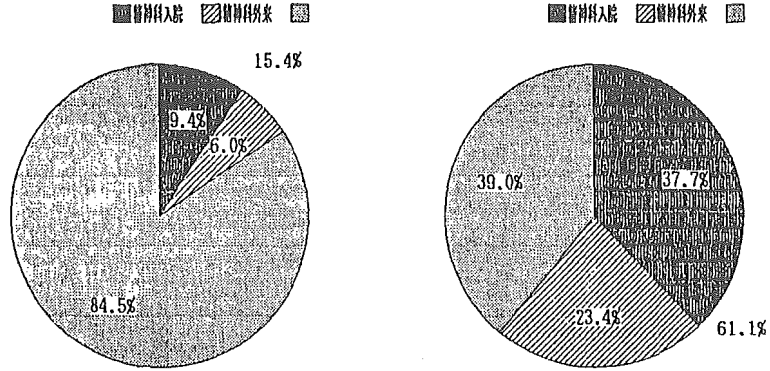
家族構成



4

生活保護者のうち精神科患者の占める割合

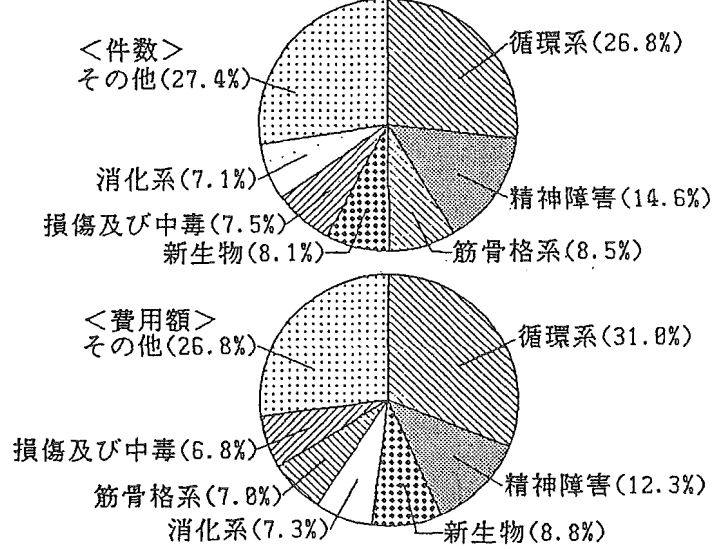
生活保護を受給している精神科患者のうち単身者の占める割合



		%			%
■	47	9.4	■	29	37.7
▨	30	6.0	▨	18	23.4
□	421	84.5	□	30	39.0

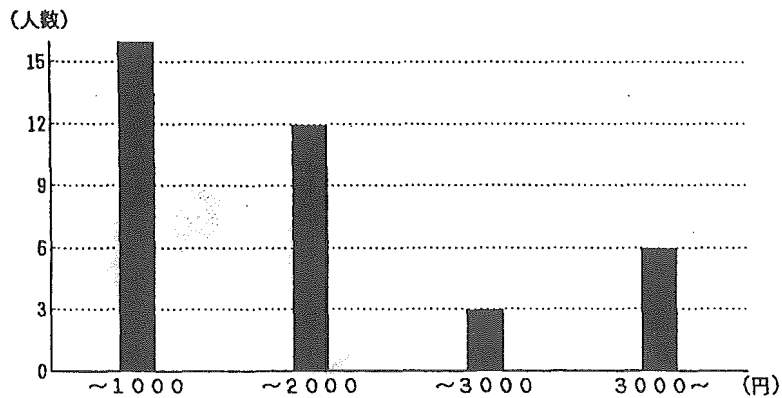
5

平成6年5月 国保被保険者の疾病分類別受診状況
(A町)
[入院]

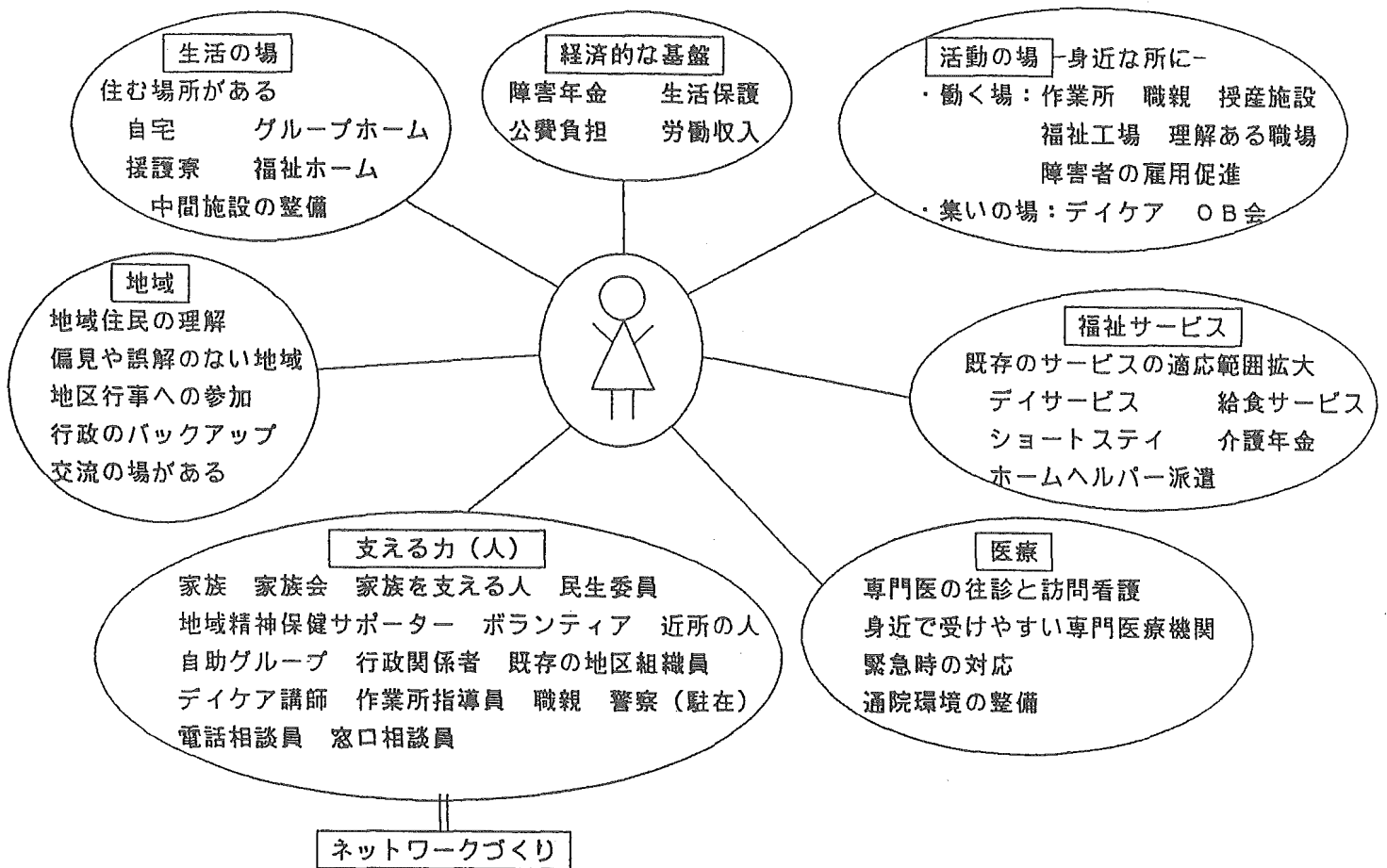


6

1回の通院に要する交通費

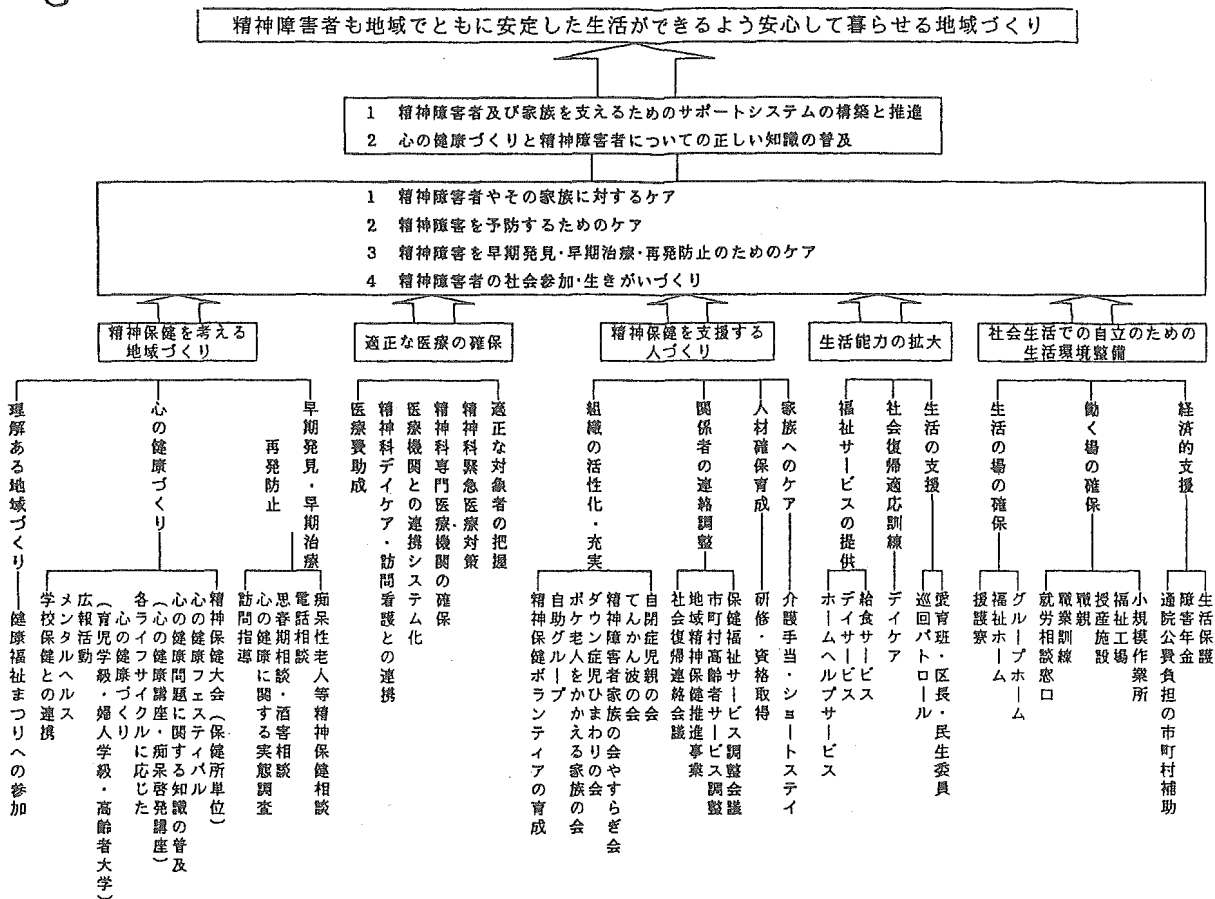


7 精神障害者が地域で安心して暮らせる条件



8

大野郡地域精神保健基本構想図



大野郡における精神保健福祉サービス（平成16年5月調査）

（は 居宅生活支援事業）

サービス項目	野津町	三重町	清川村	緒方町	朝地町	大野町	千歳村	犬伏町	保健所
地域家族交流会	○	○	○	○	○	○	○	○	家族支援会
地域の交流拠点（場）	○	○	○	○	○	○	○	○	/
ホームヘルプサービス	○	○	なし	○	○	○	○	○	フオロ研修
グループ利用	○	○	○	○	○	○	○	○	/
シヨク算化	○	○	○	○	○	○	○	○	/
障害者手帳									
取得者	21人	71人	7人	21人	7人	22人	9人	11人	/
交通費助成	○	○		○	○	○	○	○	/
医療費助成		○				○	○		/
作者	2人	15人		ヘルストハ ウス送理			○	2人	/
作者									
金	○	○	○	○	○	○	○	○	/
通院費	○	○	○	○	○	○	○	○	/
障害申請窓口	○	○	○	○	○	○	○	○	/
障害者安心サービス	○	○	○	○	○	○	○	○	/
保健所参加者	1人	5人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	木曜日
ケアイオケア会									第4金
保健所による精神科医による	○	○	○	○	○	○	○	○	随時
精神科医による	○	○	○	○	○	○	○	○	随時